

子ども110番の家 対応マニュアル

～ 子供を犯罪から守ろう～

子ども110番の家



けいさつ ぼうはんきょうかい

山口県警察本部

「子ども110番の家」の皆様へ

全国的に子供たちを狙った痛ましい事件が増加しています。

「子ども110番の家」の協力家庭（商店・事務所等を含む）は、不審者（犯人）から逃れるために駆け込んできた子供たちの安全を確保する場所となります。

山口県内におきましても、1万を超える「子ども110番の家」が設置され、各学区ごとの活動が行われています。

皆様の活動により、子供や女性を対象とした犯罪の未然防止・拡大防止、情報提供による犯人検挙などの事例が数多く見られるようになっております。

このマニュアルは「子ども110番の家」としての活動に役立てていただくために作成したものです。

子供たちを犯罪被害から守り、安全に暮らせるまちづくりに向けてのご協力をお願いいたします。

2006年2月

山口県警察本部



「子ども110番の家」の役割

1 「子ども110番の家」の必要性

都市化現象や住民意識の変化に伴って、住民同士の連帯意識や相互扶助機能が低下し、地域の犯罪抑止機能が弱体化しています。

子供を犯罪から守るためには、警察はもとより、地域住民・学校関係者・ボランティア等が相互に連携し、子供たちが安全に暮らせるまちづくりを推進して、地域社会で子供たちを守ることが必要になっています。

2 「子ども110番の家」の役割

「子ども110番の家」は、子供たちが登下校時などに「不審者からの声かけ、痴漢、つきまとい行為」等の被害を受けて身の危険を感じたときに、避難場所として駆け込み、警察へ110番通報するための場所です。

危険とは犯罪に限らず、いじめや自然災害による被害も含まれます。

例えば、

- 変な人に声をかけられた
- 車に無理やり乗せられそうになった
- 知らない人に後をつけられた
- 痴漢被害にあった
- 物（お金）をとられた
- 交通事故にあった

などという場合で、

- その犯人（又は不審者）から逃れるための施設（一時避難所）
- 近くに公衆電話等がなく直ちに110番通報ができない時に、110番通報を行える施設（110番通報施設）

としてお願いするものであり、それ以上の負担を求めるものではありません。



子供たちが避難しやすい環境づくり

1 子供たちとのコミュニケーションを大切にしましょう

子供たちは、「知らない家に駆け込みにくい」という気持ちを持っています。このような気持ちは子供に限らず、大人も同じです。

登下校などで子供の姿を見かけたら、「おはよう、こんにちは、おかえり」と気軽に声をかけてみましょう。

子供たちと顔を会わずごとに、コミュニケーションが増してくるはずですよ。

2 表示の位置を適正に

「子ども110番の家」の表示位置は、子供の目線にあるのが最適です。

表示が物の陰になっていないか、道路から見えやすいかなどを点検し、もし見えにくく、障害となるものがあれば、取り除いてください。

3 玄関まわりの整理整頓を

危険に遭遇した子供たちは、恐怖心から逃れたい一心で駆け込んできます。玄関先に危険な物が置かれていないかよく点検してください。

また、登下校時間帯は、子供たちが駆け込みやすいよう門扉を開けておく配慮も必要です。



子供たちが避難してきたとき

1 子供を家に入れ、入口の鍵を閉めてください

不審者（犯人）に追いかけている可能性もありますので、可能な限り、早めに子供を家に入れ話を聞いてください。

2 まず、自分が落ち着きましょう

子供たちが避難してきた場合に、話を聞く側の皆さんが慌てたり、興奮していると、子供たちはますます興奮してしまいます。

まずは、皆さんが落ち着いて、何があったのか子供たちから話を聞いてください。

3 子供たちを落ち着かせましょう

避難してきた子供たちは、危険な場面に遭遇し興奮しています。

子供たちに「もう大丈夫だよ！すぐ110番してあげるから安心して！」などと優しい言葉をかけて落ち着かせてあげてください。

4 子供の話を聞きましょう

どうして避難してきたのかを確認してください。

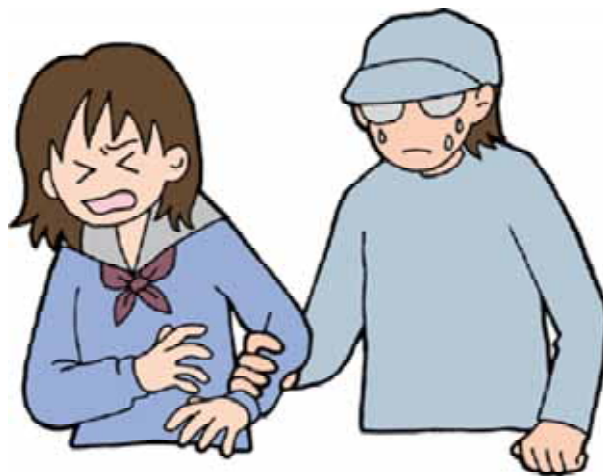
変な人に声をかけられたり、つきまとわれたのか。

痴漢の被害にあったのか。

病気で我慢できないのか。

子供たちの話をよく聞いてあげましょう。

警察や家族などがすぐに来ることを説明し、子供たちを安心させてあげてください。



事件の疑いがある場合

子供から聞く内容

子供たちが、

変な人に声をかけられた、つきまとわれた
車に乗せられそうになった、追いかけられた
痴漢の被害にあった

などの事件の疑いがある場合は、すぐに110番通報してください。

子供から聞く内容	
事件内容	何があったか
日時、場所	いつ、どこで(目標物は)
犯人の特徴など	年齢、身長、体格、頭髪、顔の輪郭、服装、凶器の有無など
車の特徴	車種、ナンバー、色
逃走方向	犯人が逃げた方向
子供の住所、名前	住所、名前、保護者の名前、学年、連絡先

110番通報の要領

あせらず落ち着いて、警察官の質問に答えてください。

警察官があなたからお聞きする内容は、おおむね上記表のとおりです。

警察官に「子ども110番の家」であることを伝え、あなたの住所、名前、電話番号を話してください。

その後、子供たちから警察官が直接話を聞きます。

事件の疑いがない場合

思いやりを持って子供たちに接しましょう

子供たちが、

お腹が痛い(トイレを貸して)
自転車がパンクした
雨宿りさせて、雷が怖い

と駆け込んでくるなど、事件でない場合でも思いやりを持って接してください。

具体的な行動をとりましょう

状況によっては、

一時的に場所を提供
保護者、学校などへの連絡
救急車の手配

など具体的に行動し、問題を解決してあげましょう。

不審者(犯人)が子供たちを追いかけてきたとき

- 1 子供たちを家に入れ、入口の鍵を閉めてください。
- 2 自分で犯人に立ち向かおうとせずに、すぐに110番通報してください。
- 3 犯人が襲いかかってきたときなど、やむを得ず、犯人に対処せざるを得ないときは、消火器、ほうきなど身近にある物を活用してください。

